

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-061175

(43)Date of publication of application : 29.02.2000

(51)Int.Cl.

B26B 21/12

(21)Application number : 10-237576

(71)Applicant : TSUKADA FUMIHARU

(22)Date of filing : 24.08.1998

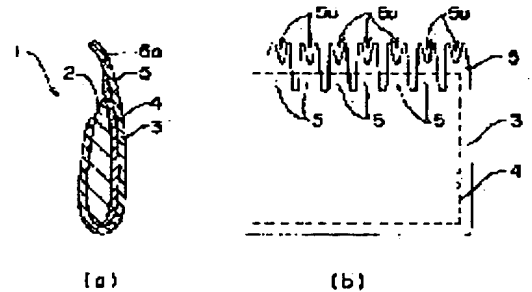
(72)Inventor : TSUKADA FUMIHARU

(54) RAZOR FOR HAIR CUTTING

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To trim the hair as desired by surely shaving the air at a specified width at every other specified intervals.

SOLUTION: This razor 1 for hair cutting has a planar main body part 2 which integrally has a handle, a comb part 3 which is mounted to hold this main body part 2 in-between and a replaceable blade 4 which is interposed between the main body part 2 and the comb part 3 and exposes its edge between comb teeth 5. The comb part 3 is formed as a curved surface so as to cover the replaceable blade 4. The comb part 3 and the replaceable blade 4 are in tight contact with each other.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2000-61175
(P2000-61175A)

(43) 公開日 平成12年2月29日 (2000. 2. 29)

(51) Int.Cl.⁷

B 2 6 B 21/12

識別記号

F I

B 2 6 B 21/12

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平10-237576

(22) 出願日 平成10年8月24日 (1998. 8. 24)

(71) 出願人 598114859

塚田 文晴

東京都目黒区碑文谷6丁目1番20号 目黒
セントラルプラザ 1F

(72) 発明者 塚田 文晴

東京都目黒区碑文谷6丁目1番20号 目黒
セントラルプラザ 1F

(74) 代理人 100088856

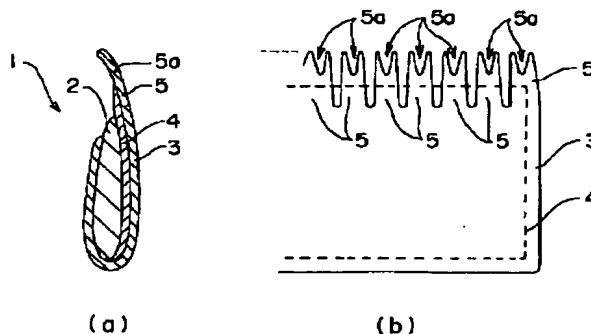
弁理士 石橋 佳之夫

(54) 【発明の名称】 ヘアカット用レザー

(57) 【要約】

【課題】 髪の毛を一定間隔ごとに一定の幅で確実に削ぎ落として、髪の毛を意図したとおりに整えることができるヘアカット用レザーを得る。

【解決手段】 取手を一体に有している板状の本体部2と、本体部2を挟み込んで取り付けられた櫛部3と、本体部2と櫛部3との間に介在し、刃先が櫛歯5間に露出している替え刃4とを有してなるヘアカット用レザー1において、櫛部3は、替え刃4に覆い被さるように曲面に形成され、櫛部3と替え刃4は密着している。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 取手を一体に有している板状の本体部と、
上記本体部を挟み込んで取り付けられた櫛部と、
上記本体部と上記櫛部との間に介在し、刃先が櫛歯間に露出している替え刃とを有してなるヘアカット用レーザーにおいて、
上記櫛部は、上記替え刃に覆い被さるように曲面に形成され、上記櫛部と上記替え刃は密着していることを特徴とするヘアカット用レーザー。

【請求項2】 取手を一体に有している板状の本体部と、
上記本体部を挟み込んで取り付けられた櫛部と、
上記本体部と上記櫛部との間に介在し、刃先が櫛歯間に露出している替え刃とを有してなるヘアカット用レーザーにおいて、
上記本体部と上記櫛部との間に介在された押さえ部を有し、
上記替え刃は、上記櫛部と密着するように上記押さえ部によって付勢されていることを特徴とするヘアカット用レーザー。

【請求項3】 取手を一体に有していると共に、取手の厚さ内で長手方向にスリットが形成された板状の櫛部と、
刃先が上記櫛部の櫛歯間に露出するように上記スリットに差し込まれた替え刃とを有していることを特徴とするヘアカット用レーザー。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、髪の毛を一定の間隔ごとに一定幅で部分的に削いで整えることができるヘアカット用レーザーに関するもので、美容師や理容師にとって有効なものである。

【0002】

【従来の技術】従来から髪の毛を一定の間隔ごとに一定幅で部分的に削ぐことが可能なヘアカット用レーザーが提案されている。図4には、その一例を示して、図5にはその断面図を示している。図4および図5に示すように、このヘアカット用レーザー50は、取手51aを一体に有している板状の本体部51の先端部に、断面凹状の櫛部52が本体部51の先端部を挟み込んで取り付けられ、上記本体部51と上記櫛部52との間に板状の替え刃53が介在された構成となっている。上記替え刃53は、刃先が上記櫛部52の櫛歯54間に露出している。また、櫛部52の各櫛歯54の先端部には、櫛部52を正面から見て円弧状のくぼみ54aが各櫛歯54の幅方向に形成されている。

【0003】いま、このヘアカット用レーザー50の櫛部52を髪の毛に当て、髪の毛に沿って移動させると、一部の髪の毛が櫛歯54の先端部に形成されたくぼみ54

aに介在し、他の一部の髪の毛が櫛歯54間に介在する。櫛歯54間に介在する髪の毛は、櫛歯54間に露出している替え刃53の刃先で切断され、上記くぼみ54aに介在する髪の毛は、替え刃53の刃先に接しないため切断されない。従って、ヘアカット用レーザー50を用いることにより、髪の毛を一定の間隔ごとに一定の幅で部分的に削いで整えることができる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記従来のヘアカット用レーザー50では、図5に示すように、櫛部52の櫛歯54と替え刃53の刃先とに間隙 α が生じているため、ヘアカット用レーザー50を髪の毛に対して鋭角的にあてると、上記くぼみ54aに介在して本来切断されるはずのない髪の毛までもが替え刃53の刃先に当たって切断され、目論見通り髪の毛を部分的に削ぐことができない場合があった。

【0005】本発明は以上のような従来技術の問題点を解消するためになされたもので、髪の毛を一定の間隔ごとに一定の幅で確実に削いで整えることができるヘアカット用レーザーを提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】請求項1記載の発明は、取手を一体に有している板状の本体部と、上記本体部を挟み込んで取り付けられた櫛部と、上記本体部と上記櫛部との間に介在し、刃先が櫛歯間に露出している替え刃とを有してなるヘアカット用レーザーにおいて、上記櫛部は、上記替え刃に覆い被さるように曲面に形成され、上記櫛部と上記替え刃は密着していることを特徴とする。

【0007】請求項2記載の発明は、取手を一体に有している板状の本体部と、上記本体部を挟み込んで取り付けられた櫛部と、上記本体部と上記櫛部との間に介在し、刃先が櫛歯間に露出している替え刃とを有してなるヘアカット用レーザーにおいて、上記本体部と上記櫛部との間に介在された押さえ部を有し、上記替え刃は、上記櫛部と密着するように上記押さえ部によって付勢されていることを特徴とする。

【0008】請求項3記載の発明は、取手を一体に有していると共に、取手の厚さ内で長手方向にスリットが形成された板状の櫛部と、刃先が上記櫛部の櫛歯間に露出するように上記スリットに差し込まれた替え刃とを有していることを特徴とする。

【0009】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照しながら本発明にかかるヘアカット用レーザーの実施の形態について説明する。図1(a)には、本発明のヘアカット用レーザー1の断面図を示し、(b)には、その部分正面図を示している。図1に示すように、ヘアカット用レーザー1は、取手(図示せず)を一体に有している板状の本体部2の先端部に、断面凹状の櫛部3が本体部2の先端部を厚さ方向から挟み込むように取り付けられ、上記本体部2と上

記櫛部3の櫛歯5が形成された側との間には板状の替え刃4が、その刃先が上記櫛部3の櫛歯5間に露出した状態で介在した構成となっている。

【0010】上記櫛部3の櫛歯5は、ヘアカット用レーザー1の長手方向に一定間隔で複数形成されていて、櫛歯5の先端部には、凹状の深溝5aがそれぞれ形成されている。また、図1に示すように、上記櫛部3の櫛歯5が形成された側は、替え刃4に覆い被さるように内側に反った曲面に形成されていて、これによって替え刃4は櫛部3と密着した状態で介在している。

【0011】いま、ヘアカット用レーザー1の櫛部52を髪の毛に鋭角的に当て、髪の毛に沿ってレーザー1を平行移動させると、一部の髪の毛が櫛歯5の先端部に形成された上記深溝5aに介在し、他の一部の髪の毛が櫛歯5間に介在するため、櫛歯5間に介在する髪の毛は、櫛歯5間に露出している替え刃4の刃先に当たって切断され、上記深溝5aに介在する髪の毛は、替え刃4に接しないため切断されない。従って、ヘアカット用レーザー1を用いることにより、髪の毛を一定間隔ごとに一定幅で部分的に削いで整えることができる。

【0012】発明が解決しようとする課題の欄で述べたとおり、図4及び図5に示すような従来のヘアカット用レーザー50では、櫛部52の櫛歯54と替え刃53の刃先との間に間隙αが生じているため、ヘアカット用レーザー50を髪の毛に対して鋭角的にあてて移動させると、上記くぼみ54aに介在している髪の毛までもが替え刃53の刃先で切断され、髪の毛を部分的に削ぐことができない場合があったが、上記実施の形態によれば、替え刃4は櫛部3の櫛歯5が形成された側と密着した状態で介在されているため、ヘアカット用レーザー1を髪の毛に対して鋭角的にあてても、上記深溝5aに介在する髪の毛は替え刃4に接しないため切断されず、従って、髪の毛を一定間隔ごとに一定の幅で確実に削いで整えることができる。

【0013】次に、別の実施の形態について説明する。なお、この実施の形態における正面図は図1(b)に示すものとほぼ同様であるので、図2にこの実施の形態における断面図のみを示し、正面図は図1(b)を参照するものとする。

【0014】図1(b)および図2に示すように、ヘアカット用レーザー1は、取手(図示せず)を一体に有している板状の本体部2の先端部に、断面凹状の櫛部3が本体部2の先端部を厚さ方向から挟み込むように取り付けられ、上記本体部2と上記櫛部3の櫛歯5が形成された側との間には板状の替え刃4が、その刃先が上記櫛部3の櫛歯5間に露出した状態で介在している。さらに、上記本体部2と上記櫛部3の櫛歯5が形成されていない側との間には押さえ部材6が介在している。

【0015】図1(b)に示すように、上記櫛部3の櫛歯5は、長手方向に一定間隔で複数形成されていて、櫛

歯5の先端部には、凹状の深溝5aがそれぞれ形成されている。また、図2に示すように、上記替え刃4は、押さえ部材6によって櫛部3の櫛歯5が形成された側に付勢されていて、これによって、替え刃4は櫛部3の櫛歯5が形成された側と密着した状態で介在している。

【0016】従って、この実施の形態も図1(a)に示す実施の形態と同様に、ヘアカット用レーザー1の櫛部を髪の毛に対して鋭角的にあてて髪の毛に沿って移動させても、替え刃4が櫛部3の櫛歯5が形成された側と密着しているため、上記深溝5aに介在する髪の毛が替え刃4によって切断されることはなく、櫛歯5間に介在する髪の毛のみを削ぎ落とすことができるため、髪の毛を一定間隔ごとに一定幅で部分的に確実に削いで整えることができる。なお、図2に示す押さえ部材6は、上記本体部2と上記櫛部3の櫛歯5が形成されていない側との間に介在しているが、上記本体部2と上記櫛部3の櫛歯5が形成されている側との間に介在していてもよい。要は、替え刃4が櫛部3の櫛歯5が形成された側と密着するように付勢することができれば、押さえ部材6をどのような位置に取り付けてもよい。

【0017】次に、さらに別の実施の形態について説明する。なお、この実施の形態における正面図は図1

(b)に示すものとほぼ同様であるので、図3にこの実施の形態における断面図のみを示し、正面図は図1(b)を参照するものとする。

【0018】図1(b)および図3に示すように、ヘアカット用レーザー1は、取手(図示せず)を一体に有していると共に、取手の厚さ内で長手方向にスリット3aが形成された厚板状の櫛部3と、上記スリット3aに差し込まれた替え刃4とで構成されている。上記スリット3aは、紙面上において上下方向の上端部が、上記櫛部3の櫛歯5間まで形成されている。従って、替え刃4は、その刃先が上記櫛部3の櫛歯5間に露出した状態で上記スリット3aに差し込まれた状態となっている。換言すれば、替え刃4は、上記櫛部3の櫛歯5間のみにおいて露出した状態になっている。また、上記櫛部3の櫛歯5は、図1(b)に示すように、長手方向に一定間隔で複数形成されていて、櫛歯5の先端部には、凹状の深溝5aがそれぞれ形成されている。

【0019】いま、ヘアカット用レーザー1の櫛部を髪の毛に当て髪の毛の長さ方向に沿って移動させると、一部の髪の毛が櫛歯5の先端部に形成された上記深溝5aに介在し、他の一部の髪の毛が櫛歯5間に介在する。替え刃4は、上記櫛部3の櫛歯5間のみにおいて露出した状態になっているため、櫛歯5間に介在する髪の毛は、櫛歯5間に露出している替え刃4の刃先で削ぎ落とされ、上記深溝5aに介在する髪の毛は、替え刃4に当たらず切断されない。従って、この実施の形態によっても図1(a)に示す実施の形態と同様に、ヘアカット用レーザー1の櫛部を髪の毛に対して鋭角的にあてて移動させる

と、髪の毛を一定の間隔ごとに一定の幅で部分的に削ぎ落とすことができ、髪の毛を意図したとおりに整えることができる。

【0020】図3に示す実施の形態では、替え刃4は櫛部3と必ずしも密着している必要はない。替え刃4はスリット3aに差し込まれて櫛部3で周囲が覆われていて、櫛歯5間に露出している部分でしか断髪の毛することができないため、替え刃4を櫛部3と密着させた前記二つの実施の形態と同様に、上記効果を得ることができる。

【0021】

【発明の効果】請求項1記載の発明によれば、取手を一体に有している板状の本体部と、上記本体部を挟み込んで取り付けられた櫛部と、上記本体部と上記櫛部との間に介在し、刃先が櫛歯間に露出している替え刃とを有してなるヘアカット用レザーにおいて、上記櫛部は、上記替え刃に覆い被さるように曲面に形成され、上記櫛部と上記替え刃は密着しているため、髪の毛を一定の間隔ごとに一定の幅で確実に削ぎ落とすことができ、髪の毛を意図したとおりに整えることができる。

【0022】請求項2記載の発明によれば、取手を一体に有している板状の本体部と、上記本体部を挟み込んで取り付けられた櫛部と、上記本体部と上記櫛部との間に介在し、刃先が櫛歯間に露出している替え刃とを有してなるヘアカット用レザーにおいて、上記本体部と上記櫛部との間に介在された押さえ部を有し、上記替え刃は、上記櫛部と密着するように上記押さえ部によって付勢されているため、髪の毛を一定の間隔ごとに一定の幅で確実に削ぎ落とすことができ、髪の毛を意図したとおりに整*

*えることができる。

【0023】請求項3記載の発明によれば、取手を一体に有していると共に、取手の厚さ内で長手方向にスリットが形成された板状の櫛部と、刃先が上記櫛部の櫛歯間に露出するように上記スリットに差し込まれた替え刃とを有しているため、髪の毛を一定の間隔ごとに一定の幅で確実に削ぎ落とすことができ、髪の毛を意図したとおりに整えることができる。

【図面の簡単な説明】

10 【図1】本発明にかかるヘアカット用レザーの実施の形態を示す(a)は横断面図、(b)は部分正面図である。

【図2】本発明の別の実施の形態を示す横断面図である。

【図3】本発明のさらに別の実施の形態を示す横断面図である。

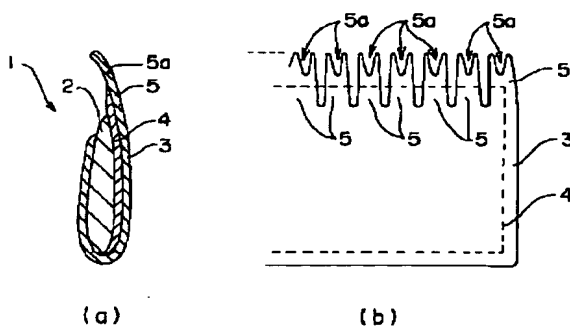
【図4】従来のヘアカット用レザーを示す正面図である。

20 【図5】上記ヘアカット用レザーを示す横断面図である。

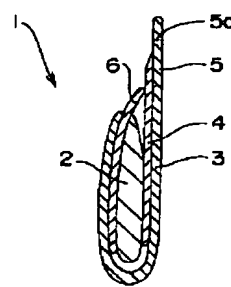
【符号の説明】

- 1 ヘアカット用レザー
- 2 本体部
- 3 櫛部
- 3a スリット
- 4 替え刃
- 5 櫛歯
- 5a 深溝
- 6 押さえ部材

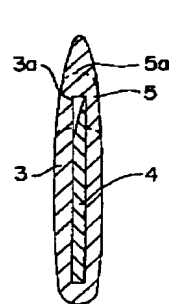
【図1】



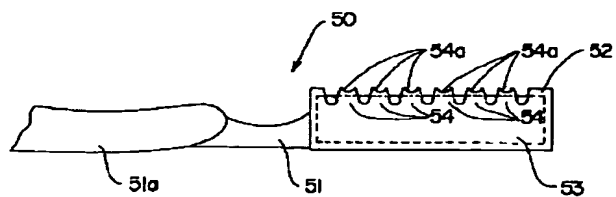
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

